

最先端観光コンテンツ インキュベーター事業
「夜間の観光資源活性化に関する協議会」第2回 議事要旨

- 日 時： 2018年12月26日（水）10:00～12:00
場 所： AP 東京八重洲通り QR 会議室（KPP 八重洲ビル7階）
出席者： 別紙参照
議 題： 1. 各種関連会議の報告
2. ナイトタイムエコノミーにおける統計データ算出方法
3. ナイトタイムエコノミー推進の課題と課題解決の方向性
4. 夜間交通ニーズのヒアリング状況報告
5. 今後の方向性

開会の挨拶後、事務局より本事業の趣旨・目的について、及び本事業について説明し、議論を行った。以下、その要約。

1. ナイトタイムエコノミーにおける統計データ算出方法

- 経済効果だけでなく、夜が持つ価値というものを社会的・文化的な価値という観点で可視化していく仕組みも必要ではないか。諸外国ではクリエイティブフットプリントのようなもので数値化している。単純に数値を切り取るよりもエコシステムとしてどういう価値があるのかという視点も取り入れるべきではないか。
- 海外ではナイトマーケットや百貨店などのRetail に分類される業種は夜6時以降の売上が増えており、今後コア分類に近づき、エンターテインメント等とリンクしながら伸張すると思うので、Retail をどのように扱うか検討した方が良い。
- そもそも日本の夜は魅力がない、という認識から、夜間活性化に関する議論は始まっている。日本のナイトタイムの魅力度を経年で計り、PDCA を回せるような仕掛けを考えるべきである。
- 産業分類の生活関連サービスの中にあるリラクゼーション業やエステティック業、旅行業は昼から夜にかかるので、昼の分と夜の分にどのように切り分けるかが論点になるのではないか。
- ナイトタイムをどのように盛り上げていくかというこれまでの議論の流れの中で見たいデータや、取得したデータがその先の取り組みに活かされ、議論できるような調査になっていた方が良いのではないか。今回の調査範囲はやや広い印象を受けるので、少し絞り込んで見られるような仕掛けがあっても良いのではないかと感じている。

- 全体の方向性は問題ないが、細かい調査をし過ぎると、目的が分からなくなるので、日本のポテンシャルがどれだけあるのかを示すことが重要ではないか。その中で、海外のマーケットを客観的に調べ、今後日本はどうしていくのかを分かりやすい形で提示できると良いと思う。
- 経済効果と社会的コストのバランスが折り合わないと夜間交通は発展しない。海外事例を踏まえ、客観的に示唆できるような形で提示して欲しい。
- 経年比較や経年測定という観点は非常に重要であり、観光資源としてどのように発展していくのかを継続して調査できるような項目にすべきではないか。

2. ナイトタイムエコノミー推進の課題と課題解決の方向性

① プロモーション（チケットング）

- 今後夜間のコンテンツを更に創造していく上で、新たな試みを後押ししていかなければならない。民間のサイトや自前で発信の場を構築していくことが難しい興行主の方が多いと思われる。全て幅広いコンテンツを載せることを考えると、DMO、かつ県単位で取りまとめるという観点が必要だと思う。
- 日本のエンターテインメントは、能動的に世界に発信しなくても日本のマーケットだけで十分に需要があり、国内向けのみ商慣習が出来上がっているという現状を考えると、まず海外に向けて発信していけるような環境を作っていくことが非常に重要だと思う。
- チケットングや決済を含め、全てをスマートフォン上で完結できるプロセスを作ることと、日本中どこに行っても基本同じユーザーインターフェースになっていることの実現を目指してロードマップを作るべきである。
- 日本におけるチケットングのシステムはかなりクローズドで海外から見ると分かりづらい。コンビニ発券など複雑なチケットングの仕組みを大手チケットング企業とリサーチしながらどう簡略化、多言語化できるのかを検討した方が良い。
- オリンピックのタイミングを利用して、訪日外国人もチケットを購入しやすい環境を整えるべきである。
- 訪日外国人が自国やエリアにおいて普段から利用しているサイトなどに対してアプローチすべきだという話と、新たにポータルを立ち上げる話が矛盾している。民間であっても、ポータルを構築した上でユーザーに認知してもらうまでに相当なリソースを必要としている。
- 新興スタートアップ等で海外のメディアと連携して、日本のチケットを世界に売っていくような動きが出始めているので、そういった現在の動向も捕捉してアップデートをした方が良い。
- 今後、訪日外国人向けのコンテンツも開発し、販売していく際には、コンテン

ツの拡充の議論とセットで検討すべきである。

- プラットフォームを作成するにあたっては、これからコンテンツを作り出していく事業者などが利用しやすいという観点を入れていただきたい。個人事業者がコンテンツを造成してもチケットングまでを自前で行うのは難しい。これから新規事業者の視点に立つと無償で決済・情報発信をしてくれるようなプラットフォームが必要ではないか。
- プロモーション等の投資に対して、投資対効果を注視する必要があると認識している。
- 訪日外国人にとって複雑なのはチケットングであり、この論点を掘り下げるだけでも深い話なので、まずは問題の明確化と海外の事例を示す程度に留めておいてはどうか。

② 労働

- 労働環境は、夜間交通が最大の問題であり、現状のインフラを動かすのはハードルが高いことから、相乗りサービス等を活用して顧客や従業員の送迎を実施することで多少の改善につながると思う。
- 伝統工芸や伝統技能を持っている人たち、さらに今後伝統芸能を学ぼうとする人たちをバックアップできる仕組みを作るべきである。
- 夜間の市場が変わったときに、夜間に働いてみたいか等の意向調査と、その上でどのような環境が必要か（送迎や託児所など）、把握すべきではないか。条件が揃えば働きたいということが示されたデータがないと深い議論が行えないのではないか。
- ①多様な働き方を社会全体として推進し、ナイトタイムエコノミーもその一翼を担うということ、②適正な勤務シフトを組み、妥当な割増賃金を払って、夜間の仕事を作っていくこと、③それが成立するビジネスモデルを作るのが経営者の役割であることを示していく必要がある。
- 教育の拡充に関しては、ミュージックスクール・専門学校等でDJ科やバーテンダースクール等、既に取り組み事例はある。そもそも労働人口が減っている中で、外国人の労働力をどう活用するかが今後の論点である。
- 人材不足対策は重要。入管法の改正に伴う受け入れ対応で、今後課題が出てくるのが想定されるが、新たな在留資格の検討にあたって、ナイトタイムエコノミーの政策のインプットと連携体制をどのように作るかが重要である。
- 夜間の営業を延ばすほど、労働者は帰宅が遅くなるため、夜間交通の整備とセットでどのように議論していくかが重要である。
- 日本の国際化のためには留学生の受入も必要であると思うが、ワーキングホリデーによる労働不足の課題解決の方向性も提言すべき事項であると思う。

3. 夜間交通ニーズのヒアリング状況報告

- 客ではなく従業員のニーズをメインにして鉄道路線の夜間運行を要請するのは説得力が弱い。顧客と従業員のニーズが見込める区間を選んで鉄道を動かし、それを補完する形で低コストかつ少人数のニーズに応えられる交通手段を活用すべき。
- いくら夜が楽しくなっても、それによって安心安全が少しでも損なわれることがあってはならない。安心安全が損なわれるリスクがある場合には、それをカバーする対処をしっかりと行っておかなければならない。

4. その他

- ナイトタイムエコノミーの推進にあたっては、反対意見が多いことが想像されるが、ナイトタイムエコノミーの目的は経済活性化であり、人々の暮らしをより豊かにすることである。地域の文化発信と絡めて、社会の流れをつくっていけると良いと思う。
- 地元の理解を得ながら進める、やる気のあるような地域を持ち上げられるようなモデルケースを作っていくべきである。施策の打ち出しと実際の着地点を考え、本協議会のとりまとめと将来を見据えた行動をセットで検討していく必要がある。
- エコノミーも重要だが、背景にある文化・芸術を海外の人にいかにつけてもらい、結果としてそれがマーケットにつながるという視点にもウェイトを置いていただきたい。
- 地方から「ナイトタイムエコノミーを推進したい」という声をよく聞く。最終的なアウトプットとしてのガイドラインがそのような人に対し、きちんと届き活用できるものになるか考える必要がある。

以上